熊本保健科学大学
週刊 NEWSLETTER
2021. 11. 5
第 126 号
発行　法人事務局

情報共有し学内融和を～リニューアル版に寄せて

理事長室から

木下　統晴

月1回の間隔で発行されてきた学内広報紙「**NEWSLETTER**」を、今号から週1回の“週刊”にリニューアルし、学内外のタイムリーな話題をお届けします。

週1回の広報紙発行は、化血研理事長時代の2017年8月に始めた試みです。当時、化血研はさまざまな問題を抱え苦しい状況に追い込まれていました。何とか組織の一体化を図り、職員の気持ちをまとめたい。そんな思いの中、まずはお互いの理解を深め情報を共有することから始めようと提案したのが、広報紙の発行でした。

明るい話題を心掛ける、負担なくつくる、発行日は必ず守る、そして継続するという編集方針は、KMバイオロジクスにも受け継がれ、今日に至っています。しかも、他の企業からも問い合わせがあるほどです。これは、タイムリーな話題を共有し続けることで、組織内の融和が進み、職員の気持ちが前向きになっていった点が評価されたからだと自負しています。本学広報紙のリニューアル版もまた、化血研時代の編集方針を踏襲したものです。

私は「一円融合」と「積小為大」という言葉を大切にしています。前者は、それぞれに役割を持っていて、その役割を果たすことで全体ができているということ。後者は、一歩踏み出せば次のものが見えてくるという意味に解釈しています。いずれも二宮尊徳の言葉ですが、まさに広報紙は一円融合を進めるものであり、大を為すための小さな一歩だと思います。広報紙を通し、各学科、センター、事務系セクション等に横串を通すことで、全ての関係者が手を携え、本学の未来を明るいものにできるでしょう。今後は読者層を学生、保護者、同窓会等にも広げていけたらと考えています。

銀杏アラカルト

■令和４年度入試始まる　10月23日（土）、総合型選抜を皮切りに令和4年度入試が始まりました。今年の総合型選抜の受験者数は募集人員19人に対して51人。当日は、本学教職員119人が試験の運営に当たりました。

総合型選抜では、保健医療職へ就く意志が固く、本学への入学を強く希望する専願者を対象とします。今年度初めての入試でしたが、問題なく無事に終了しました。

竹屋学長は「プレゼンのポスターは個性溢れるものが多く、入学後のリーダーシップに期待したい」と話していました。

本学の学部入試は「大学入学共通テスト利用選抜（前期・後期）」を含め計6回実施されます。（入試・広報課）

受験生（左）を案内する本学職員

新生児モデル人形を抱く高校生

■高校生がキャンパス見学　10月31日（日）、高校生に向けたキャンパス見学会があり、計40人の参加がありました。本企画は、7月と9月に計3回開催したオープンキャンパスに参加できなかった生徒らを対象に、本学キャンパスの雰囲気を感じてもらおうというものです。法人事務局と入試・広報課が企画し、10月9日（土）に続き本年度2回目の開催となりました。同日は、保護者を含め午前の部に22人、午後の部に18人が参加。本学の事務職員の案内で学内を見て回りました。参加者からは「素敵な施設を見てぜひ合格したいと思った」、「先輩方のお話も聞けてとてもいい時間だった」といった声が寄せられました。（入試・広報課）

来年度 理学療法学専攻の定員増

文科省認可 スポーツリハビリテーションコース新設へ

リハビリテーション学科 理学療法学専攻の収容定員増が10月22日付で文部科学大臣より認可されました。これに伴い令和4年4月からの入学定員も40人から60人に変更になります。定員増を機に、健康・スポーツをキーワードに地域貢献できる人材やデータ分析等の研究力を有した人材育成を目指す「スポーツリハビリテーションコース」（定員20人、2年進級次選択）を理学療法学専攻に新設します。

スポーツリハビリテーションコース選択者には、通常の理学療法士養成のカリキュラムに加え、スポーツリハビリテーションに特化した演習や講義を準備しています。この中では、実業団チームなどとアカデミックパートナーシップを結び、実践的な演習も予定しています。また、ダブル・ラーニング制度により、理学療法士の国家資格に加え、アスレチックトレーナー（JATAC）の資格取得を目指します。この資格は、日本アスレチックトレーナーズ協会認定の資格（現在、認定校の申請中）で、スポーツリハビリテーションコース選択者だけが取得できるものです。

厚労省の分科会による将来予測によると、理学療法士の数は2040年には需要を大きく上回り供給過多になるとされています。そのような中での定員増とそれに伴うスポーツリハビリテーションコースの新設は、健康寿命の延伸を視野に入れたスポーツと理学療法の組み合わせにより職域の拡大を図ろうという、いわば、理学療法士の未来を切り拓くための挑戦的な試みです。（PT収容定員増プロジェクト設置準備室）

PTの新たな活躍の場 切り拓く

理学療法士と言えば、一般の方だけでなく医療関係者の間でも、障がい者や高齢者のリハビリテーションというイメージが強いかもしれません。しかし、これからの理学療法士には、急速に進歩している身体測定技術を駆使し、体を科学するという役割も加わります。理学療法学的視点でアスリートの能力を向上させることも、その役割の一環です。例えば、今年の夏を熱くした日本のトップパラリンピアンのうちの数人は、本学で車いすのフォーム解析等の動作計測を実施しています。また、「スポーツヘルスサイエンス事業」と銘打った新規事業では、水上村にあるスカイヴィレッジで九州学院高校や大牟田高校など、九州内の高校陸上部・駅伝名門チーム等に所属する選手のフォーム解析や体力測定を実施し、指導に役立てています。

こうした取り組みは、障がい者やトップアスリートだけでなく、今後の「健康寿命の延伸」という我が国の最重要課題に対して、理学療法士が「スポーツを科学して健康をつくる」という側面から貢献できることを示唆しています。これは、病気になって「治療」するという考えから、積極的に病気にさせない健康な体をつくるという「予防」への発想の転換でもあります。今回の定員増認可を申請するにあたって医療機関に対して行ったアンケートでも、回答があった医療機関の45％が本学の志向するスポーツリハビリテーション領域の人材に興味を示しています。また、熊本県などの行政や各種スポーツ団体からも新コースへの期待が寄せられています。（法人事務局／経営企画室）

（写真上）水上村スカイヴィレッジでフォーム分析用のセンサーをつける松原准教授。（写真左）乳酸値測定をする鏑木講師。

インフォメーション

週間行事予定（11月6日～12日）		
11 / 6（土）	助産別科推薦入試 大学院推薦選抜・社会人選抜（Ⅰ期）	※合格発表：11/12 ※合格発表：11/19